

第1部 リレートークとパネルディスカッション

～導入～ コーディネーター：関根 健一氏

高校2年生の長女が脳性麻痺で車いすに乗っている。特別支援学校のPTA会長、障がい者に特化した雇用の支援をしている。PTA連合会としてもろもろのまちづくりに関する会議に参加する中で、「時間はかかるが、アイデアがうまく反映されていない」と感じていた。人によっては「お役所仕事だからね。」とかいう人もいるが、そうではなく役割がうまく回っていないんじゃないかな。市民は行政に対して「まちづくりをやるのは行政、市がやるんだ」という感じがあるが、本当はそうじゃなくて主体になるのは市民であって、行政はコーディネートをする役割なんだということに私の中で結論が出た。そう考えると、人任せではなくて、まず自分がどうやったら動かせるかということを考えなければいけないと思うようになった。そんな矢先にお話が合ったのが公運審委員にならないかというお話。公運審って最初なんだかわからなかったが、よくよく聞くと『公民館運営審議会』の略で公運審なんですね。当たり前のように公民館の職員さんは公運審と言ってなんだかわからなかったんだけどそういうことが分かった。さっきのようなことを考えていたので2つ返事でやりたいと思った反面、無駄に時間をとられるのもイヤだったので、「アイデアが形にならないんだったらやりません」ということを当時の職員の方に話をしたら、「イヤイヤ大丈夫、うちの館長すごいノリがいいし…」ということで引き込まれて入った。入ったらこの職員は1年で公民館を去っていった。(笑) 当時のノリのいい館長というのは今鶴瀬公民館の冨塚館長です。実は小さいころ冨塚館長のお宅に勉強を習いに行っていたのが後々判明して、すごい腐れ縁だなあと思っただけでもそういうメンバーと一緒にやろうと思って始めました。始まって私がまず始めに出したアイデアが『公民館カフェをやりたい!』。公民館カフェは以前私があるセミナーを受けた時に、カフェとかを営業する社長さんのセミナーだったんだけど、カフェに何を掛けたら、何を足したら社会的な問題が解決できるかという宿題が出て、その時に集まった意見が12~13あったんですけど、その中のほとんどが「カフェ×学童保育、カフェ×高齢者施設、カフェ×病院」といったようにすごく公共空間が多かった。やはり公共空間にカフェがあるということはすごく空気を和ませてくれる。そういうことがあるんだなあと思ったときに私が真っ先に思いついたのが公民館でした。公民館で何かやりたいと思ってぶちまけたのはいいんですけど、実際に始まってみると、保健所の問題だとか、営利目的だとか…「ちょっとできませんね。」という話になってしまってなかなか進まない。これが俗にいうお役所仕事かと思った反面、ぼくは勢いで進んでしまうので、逆に公民館の職員さんがそういうこまごましたところを調べてくれることがすごく助かった。これが先ほど言ったコーディネートをやってくれるということだと思いました。言ってるだけでは進まないんで、とりあえずやろうということで、公民館の文化祭の時の懇親会でコーヒーを出した。そしたら皆さんすごく喜んでくれて、道でばったり会ったときに、「この間美味しかったよ」とか、私の母を捕まえて「この間息子さんにコーヒー入れてもらってね」とか言うてくださって、すごくそれが嬉しくて、やって良かったと思った。そのことを公運審会議でお話したら、議長さんが感銘を受けてくれて「今度南畑の青空市場というイベントで公民館カフェを出さないか」ということになりました。これがきっかけで、継続的にできるのではないかと始めたのが今の公民館カフェで、月に1回やります。実は今月は明日設定しました。今日興味を持っていただいた方にぜひ来ていただきたいと思って明日10時から12時までロビーでやっていますので、是非ともご参加いただければと思います。それからもうひとつが「ガレージコーヒー」。公民館カフェで味をしめて、私の自宅の通りに

面したガレージでコーヒーを振る舞う活動を始めました。きっかけはここに大きいテーブルがあるのですが、このテーブルをもらった時に足を足さなきゃいけないのでDIYでやって、天気がいいからそのままここで仕事しようとPCをひらいてやりはじめたら、今まで素通りしていたような道行く人が足を止めて声をかけてくれるんですね。あ〜これはいいなあと思って、じゃあどうせだったらゆっくりしてもらおうと思ってコーヒーを出すようになった。この手前にある白いベンチも建築現場で使う足場板にペンキを塗っただけ。4mある



のですごく存在感があって、まさに風景が変わったかなと思いました。そのうち奥も片づけて、みんなに使ってもらえる場所にしたいと思って、ゆるやかな境界プロジェクトを進めている。我が家から数分のところに田園があり、どんぐり山（石井緑地公園）もあるので、こういうところに遊びにきた人たちが立ち寄れるような、海の家じゃなくて里の家みたいなものになったらいいなと今考

えています。それで「ゆるやかな境界ファンクラブ」さんに支援してもらって、月額会費という形でいただめている。ここQRコード読み取るところです(笑)。に入っただければと思いますのでよろしくお願動が広がって、狭山台の方で友人の建築設計事務所をやって、この間は群馬の伊勢崎で障がい児コーヒーを淹れに行ったりしています。コーヒーをところで活動させてもらっています。そんな活動を3人をお呼びしたのは、活動し始めると、周りで動い報が入ってくる。そんな中で、まちの風景を変えるこの3名の方に去年たて続けに知り合うことができ、



ということで皆さいて活動資金を集ぜひファンクラブいします。そんな活の前でフリーコーイイベントの時にも通じていろいろなしている私が、今回ている人たちの情人たちだと思

のちほど活動内容をお話していただきます。3名の皆さんは共通点があって、建築、設計、デザインと、皆さんとてもクリエイティブなお仕事をされている。それから私も建築の人間。まちづくりに目を向けている方は全国に見渡してみても建築出身の方が多い。やはり箱物をつくっても中のコンテンツがなければ意味がないことに行き着く。我々が持っている箱って何だろうって思った時に私は公民館だと思った。なので、行動したいけど、私のようにガレージがある人はいいけれど、そういう場所がない人たちにぜひ公民館を自分たちの城として使ってもらって、まず風景を変える活動を始めてもらいたいと思ったのが今日のきっかけです。「富士見市ってららぽーとがあるだけで何もない街だよな。」これうちの娘がボソッといった言葉です。言いえて妙だなと思いつつ、ららぽーとがあるんだから贅沢言うなと思うけど。私自身、中学生くらいの時を振り返ったときにほんとにこの街って何もないなって思っていた。でもそんな人間が大人になってみると、こんなに野に触れる、自然に触れることができ、海の幸がとれる海岸線のように、おいしい新鮮な野菜が畑からすぐ採ってこれるってすごい幸せだなと思う。なので、子どもたちが大人になって気づいたときに、「いい街だよな。」って言えるように、今から皆さんと一緒に行動したいなと思っています。そして、みなさんに伝えたい『さあ富士見市の風景を変えていこう！』ということで、今日の3人にバトンを渡したいと思っています。最後までお付き合いください。